

民俗風土

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉 第105号 平成31年(2019)3月30日

資料見聞

キヂ



キヂ 個人蔵

木地師が作った穀物をすくう道具。ロクロに取り付けて回転させ、刃物で削った痕の同心円が見える。全面に出た木目が美しい。径18cm。

木地師きぢしの作った器です。木地師は山々を移動しながら椀や鉢、盆などを製作していた漂泊の民でした。本拠は近江国（滋賀県）にありましたが、良材を求めて全国の山々を回りました。椀を作るのに必要なロクロを発明した惟喬親王みよたかのおやを祖神とし、木地屋は全国どの山で木を伐っても良いという伝承がありました。江戸時代の土佐にも多くの木地師がいて、今でも神社の中に木地師が作ったお供え用の木の器を見ることがあります。

本資料は精米をした米や雑穀をすくうためなどに用いた器で、キヂという名前にも木地師の作である名残をとどめています。

杉本壽『木地師制度の研究』第2巻には、大野見村字島ノ川・下ル川の木椽家について「俗に木地と呼ばれている穀物を掬う器具を多く製造していたらしく、雑穀栽培の中世期にあつては各家庭の必需品であつたので、その需要は極めて大きかつたらしい」(740P)と述べられています。キヂは高知県の山深い山村には分布していたようで、『高知県方言辞典』には、「きぢ」の項に、東津野、物部香北、本山、池川、梶原が出ています。桂井和雄さんの「山村民具の話」によると土佐郡の一部ではスクイ、幡多郡ではキヂクリと言ったようです。

(梅野)

企画展 「土佐・木の民具ものがたり」

会期：平成31年4月26日(金)～6月30日(日)

梅野光興

民具は、一般の人が使ってきた暮らしや仕事の道具です。ワラや竹など身近にある材料で作られたものが多いのですが、最も多い素材は木でしょう。

高知県は森林率が84%の森林県です。山々の木々は木材や薪として出荷されることが多かったようですが、土地の人が暮らす家や生活道具にも使われました。今回の企画展では、民具の展示をおして、高知に住む人々の木の利用の一端を垣間見たいと思います。

木の素材を活かした民具

最初は木の枝をあまり加工せず使う例です。木の幹や枝の特徴を活かして使っている民具で、素朴な面白さがある



写真1 エブリ

ります。写真1は、水田を馬鍬で耕した後に土の表面をならすエブリですが、長い木の幹をそのまま柄にしている、先端を二つに割って板に差しこんでいます。一方、木の又になった部分を利用する民具もあります。自在鉤の鍋を掛ける部分や、運搬具のオイコの鉤です。コモを編むコマセという道具を支える逆Y字型の足も又状の木を二つに割って使う場合があります。香美市物部町別府ではコーカギという又になった木をよく使ったそうです。

木を棒にして使う例には運搬具のオークやサス、鍬の柄などがありますが、これらはかなり加工しています。



写真2 ケヤキの皮を曲げて作る桶



写真4 裁縫箱

剥ぐ・剝ぐ

次に木を剥って作られた民具です。餅搗き用の臼は石製が多いですが、山間部には木を剥って作った搗き臼もありました。挽き臼の粉を受ける台にも、木を剥って作った物が見られます。

木地師が作った椀や鉢は「挽き物」と言いました(1頁写真)。ロクロを使って椀や鉢を回転させ切削して作ることを「挽く」と言ったからです。山々を渡り歩く木地師は神秘視され、その



写真3 木の板を組んで作る桶

墓のある場所にはふだんは人が近づかないという所もあります。

木の皮を剥ぎ、丸めて容器を作る方法も近年まで県内の山中に伝えられてきました。この方法で作られた容器を曲げ物と言います。何枚ものクレ(木の板)を竹のタガで締める「結い桶」が普及するまでは曲げ物の桶が一般的でした。物部町など山深い所では村人がケヤキの皮を剥いで穀物を貯蔵する桶(写真2)を作っていました。



写真5 桧笠

加工用具の発達と道具の多様化

ここまでは、木の形や皮を活かして道具を作る例をあげましたが、鋸などの刃物が発達すると、薄く、幅の狭い板を作ることができるようになり、生産できる道具の範囲が広がりました。結び桶や箱はそれによって普及していった民具です。自然物を利用した道具は木の大きさに制限されますが、一本の木からいくつものパーツを作って、それを組み合わせていくことで、様々な形と大きさの桶（写真3）が生み出されました。箱も長持などの大きな物から小物入れまでバリエーションが広がりました。複雑な作りのタンスも技術の発展の賜物です（写真4）。ダンボールが無い時代は木箱が物を収納し

持ち運ぶ容れ物でした。

本山町の桧笠（写真5）は、白髪山の豊富な桧を材料に経木をカンナで削り機で織り、ミシンで縫い合わせて特産品になりました。

これらの民具を作ったり、建物を建てるために活躍したのが、さまざまな加工用具です。大工用具には鋸、鑿、鉋などがあり、用途や場面に応じてさまざまな形状の道具を使い分けました（写真8）。例えば桶屋は、湾曲した内側を削る鉋、外側を削る鉋など、用途や大きさに応じた独特の道具を持っていました（写真6・7）。

材料になる木を切り出す杣、運び出す日備、製材する木挽き、木を使って家を建てる大工、小さい道具や家具を

作るそれぞれ専門の職人たち、と木材の利用をめぐるっては色々な職種の人々が活躍していました。

木霊に対する信仰

山々に生えている木を伐採して人間のために使うためには、木に宿る木霊を抜いて山に返す呪法が必要でした。大工は木霊送りの儀礼をおこなっていました（写真9）。ただし、そうやって家や舟を作り上げた大工はまた別の霊魂を家や舟に収めるのでした。舟には船霊と呼ばれる男女一対の人形を収めます。家ではそこまで顕著ではありませんが、人柱の伝説は全国に広がっています。これも、木の魂を抜いたままでは、家や舟は機能せず、何か別の

魂を吹き込まねばならないという考えのあらわれなのでしょう。

木の文化に親しもう

木の文化に親しんで頂こうと、連休期間中の5月3日（金・祝）から5日（日）まで、木の玉プールやままごとセットなど木のおもちゃコーナーを設けるほか、5月3日「れきみんの日」には、土佐の職人さんによる大工や左官仕事の実演を、また、3日と4日はワークショップを開催します。6日には、武蔵野美術大学の神野善治先生に、木の民具の形について興味深いお話しをうかがいます。展示に加えて、関連企画もぜひご参加下さい。



写真6 カンナの使い方を示す桶職人 芝崎真喜雄さん



写真7 桶作りの道具
上/用途に応じて使い分ける鉋、右下/センとヤリガンナ



写真8 マイヂョーナ



写真9 木槌で棟木を叩いて木霊荒神を送るいざなぎ流太夫

講演会から（平成30年12月2日）

「土佐の民具に見る時代と社会」 ——農具と山林用具を中心に——

元神奈川大学教授 香月洋一郎

◆高知との出会い

私は学生の頃初めて高知に来ました。四国を一ヶ月かけて縦断していましたが、ちょうど梶原町に入った時に雨が降り出し、商人宿に泊めてもらったことを覚えていますが。それから50才ぐらいまですと高知を歩いてきました。今日お話しするのは、私が若い頃から中年になるまでの高知県のイメージということになります。

◆道具から読み取れる情報

道具はいろんな情報をもっています。20代の頃、大豊町で民俗資料を集めるのを手伝って、オガ（木挽き鋸）が100丁集まりました。木挽きのおじさんに、このオガを見てわかることを全部教えてくれと頼みました。するとんでもないことを言い出すんです。「この鋸の持ち主が誰なのかは知らん。だが、腕の良い人だが仕事には恵まれなかった人だろう。親方と折り合いが悪かったのかも知れんし、神経質で体が弱かったのかも知れんし、なぜそんなことがわかるのかと聞くと、「木挽きは目立てで腕が良いか悪いかはひとめでわかる。このオガの目立ては上手

い。ものすごく上手い。きつちりした性分で癪が強い。ところがこのオガは、この土地のものとしては古いが、使いこまれていない。木挽きとしてうまくいかなかったんじゃないか。すると体が弱い、人とのつきあいがうまくいかなかったか……」そんな風に見えるんだと教えてくれました。道具に頼つて暮らしていた切実さや使い手の技量や立場が一つ一つの道具に重なっているんです。オガとはどのような道具かという一般的な説明だけではなくて目の前の道具から読み取れる情報が大切なんです。こういう形で1丁1丁の持っている情報を20、30と集めていくと地域の姿が見えて来ます。豊永の100丁のオガからわかったこの地域の木挽き仕事は、専門職人を輩出するレベルでは根付かず、農間稼ぎで終わつたという結論になりました。それは今の人たちへの問いかけにもなります。おじさんたちが超えられなかった壁に対して、これからのどのような姿勢をもっていくんだろう。そこまで考えることで集められた道具が生きてくるように思えます。

◆納屋から見える近代

その土地の生産暦を作るとしましう。稲作、畑作など季節ごとの農作業の表を作ってみる。これはこれで大事なことです。ある時、平面的に品目を並べたメニューに過ぎないのではないかとも考えるようになりました。個々の家はそのいくつもの仕事の中から家族の力量や才覚を考えて、耕地や労働力を配分し、一年間の仕事を決めていきます。その土地一般の農事暦というものはないんです。

一軒一軒の農家の性格や息づかいは農家の納屋が語ってくれます。納屋の民具の配置に、使い手の意志や生産形態が反映しているんです。50年前の納屋をそのまま復原したら、どんな展示よりも多くの事柄を語ってくれるのではないかと思つたこともあります。

◆土佐打刃物の特徴

高知は日本有数の刃物の産地です。大きな特徴は山林用具物の技術が高いことです。鍛冶屋は刀鍛冶と実用品を作る野鍛冶に分けられますが、窪川（四万十町）の鍛冶屋の梶原照雄さんに、日本の野鍛冶の代表としてスウェーデンの研究会に出てもらったことがあります。高知にはそれくらい技術力の高い鍛冶屋がいるんです。

土佐鋸の産地は片地村（香美市土佐山田町）でしたが、明治12年の片地村

誌に鋸は出ていません。カンザシが特産でした。それが、片地村の中の山田島は戸数60軒の内20軒がノコ鍛冶の親方になった。ノコ鍛冶は分業体制なので、親方以外の家も何らかの形で鋸に関わっていました。まさに山田島は鋸鍛冶の村になったんです。

製品を売りに行ったのが職人だったことも土佐の特徴です。九州などへ出かけて行き、使っている人の所へ行って使い勝手の良い物を作った。兵庫県三木や福井県武生が問屋や行商人によって販路を広げていったのとは違います。

洋鋼の普及が製品を作るスピードを上げ、郵便制度により遠くの顧客が増える……。土佐打刃物の発展は近代に起こったことでした。

片地に起こった近代の変化は、山間の村にも波及していきました。豊永（大豊町）のサラエという鋸は昔はヒツ穴（柄をさしこむ穴）が外に出ていました。豊永の鍛冶屋にはヒツ穴を出さずに作る技術が無かつたのです。それが山田で修行した鍛冶屋さんが出来て作れるようになりました。納屋にかかつている鋸や鎌にはそのような変化も刻まれていきます。歴史年表とは異なる時代の流れも、暮らしの歴史として考えてよいのではないのでしょうか。

（要約・文責 梅野）

遠き佐倉の地に眠る香宗我部一族

江戸時代初期、下総国佐倉（現千葉県佐倉市）には、江戸城防衛の要として佐倉城が築られました。以後明治維新までの間に、20人の譜代大名が配置されましたが、最も長く城主を勤めたのが堀田氏一族でした。

この堀田氏の初代正盛は、春日局の周旋により、長宗我部氏ゆかりの牢人を召し抱えました。その名を香宗我部貞親といいます。貞親の父は、長宗我部元親の実弟・香宗我部親泰といい、かつて豊臣秀吉や徳川家康にもその名を知られた名将でした。長宗我部家改易の後、土佐を出た貞親は、一旦肥前の寺沢広高に仕官しますが、その後牢人となり江戸・知足院で逼塞（ひっそく）していました。正盛に仕官がなかったのは、何と寛永12年（1635）、45歳の時のことでした。

貞親以降、その子孫達は、紆余曲折を経ながらも、同家の重臣として仕えました。香宗我部家の至宝（伝親泰所用甲冑や『香宗我部家伝証文』等）を伝えたのは、香宗我部隼人雅親の系統で、同家は代々番頭役・年寄役を勤めました（香宗我部豁志「長宗我部直系下の香宗我部氏」）。

佐倉市の宗圓寺（臨濟宗妙心寺派、

寛永16年建立）には、香宗我部左近貞親をはじめ、佐倉藩の執政（年寄役）を勤めた香宗我部家歴代の当主とその一族が静かに眠っています。



左から2番目が貞親の墓で、中台表面には武田菱（香宗我部紋）と鳩酢草紋（長宗我部紋）が彫られている

当館では、平成31年4月19日～6月2日の期間、コーナー展「長宗我部家の外交官―香宗我部親泰の遺品―」において、前述した伝親泰所用の甲冑、陣羽織、射籠手、笹穂槍等の遺品（香宗我部一良氏寄贈）と、長宗我部家の外交参謀として活躍した片鱗を示す古文書（浜家文書）を一室に展示いたします。

（野本）

香美市のくらしと民具 ―もの・ひと・こと―プロジェクト開催



平成30年11月10日（土）、第7回旧大栃高校民俗資料一般公開の会場で、山田高校の生徒さんと高知県立大学 from ZERO のメンバーによる民具調査の報告会がおこなわれました。ともに民具をツールに高齢者と若者や子どもがふれあうきっかけを作る点は共通していました。高校生は「古民家公民館」と題し、古民家を改装・再利用し、ミニチュアの民具を使ってゲームをすることで子どもにも興味をもってもらい、高齢者との交流の場に、地域の衰退を止めよう、と提言。カラサオを使ったモグラ叩きゲームなど柔軟なアイデアが光っていました。

（梅野）

中学生の真剣！ 障子貼り



当館の屋外展示・旧味元家住宅主屋（通称・民家）には昔なつかしい縁側もあり、岡豊山公園の散策でちょっと一息入れるのに最適です。団体で来館した小学生が、囲炉裏のぬくもりを感じたり、昔の暮らしの話を聞いたり学校の授業にも活用されています。

写真は、昨春秋に行われた南国市立鳶ヶ池中学校の職場体験の一コマです。中学生2名が民家の障子の貼り替えに力を貸してくれたので、燻ぼった障子が見違えるように白くなりました。先日、まほろば地区女性部の皆さんがぜんざいをふるまうなど、民家はさまざまな行事の舞台ともなっています。

（中村）

約2年間にわたり親しまれた 岡豊城跡詰の櫓、遂に閉場

岡本 桂典

平成29年3月31日、「志国高知 幕

末維新博」の開催にあわせ、岡豊山の国史跡・岡豊城跡山頂部（標高97m）の詰にあげられた仮設の櫓（幅9.1m・奥行7.1m・高さ9.7m）が、平成31年2月末をもって約2年間の公開を終了し、解体されることとなりました。年末年



2年間詰にあげられた櫓「長宗我部氏岡豊城址」より臨む

始と荒天時を除き9～17時まで一般に無料公開され、櫓2階から市街地が一望できることでとても人気があり、県内外から多くの来場者がありました。平成29年4月1日～平成30年3月31日までの入場者は26,599人でした。平成31年2月9日で4万人となり、総来場者は41,698人となりました。



櫓の中で案内するガイドさん（中央柱）

櫓設置に伴い国史跡・岡豊城跡の案内を土・日・祝日の10時と14時から実施しました（定時以外の予約案内も実施）。ボランティアガイドの方等を配置し、土佐弁のガイドさんがとても好評でした。ボランティアの方の中には、毎日体力作りのため、早朝より岡豊山に登る方もいらっしゃいます。遠方より自転車で館まで来てガイドをされる方、朝から夕方5時まで一日ガイドを務める強者も。岡豊城跡と櫓を巡るガイドさんは熱き方達なのです。

櫓があがった時に作成したのが『国史跡 岡豊城跡ふらり散策綴り』で



平成29年10月の台風で倒れかけた詰の榎

す。このパンフレットの紙には、少しの雨に濡れても大丈夫な紙を用い、現在の地形図に岡豊城跡の縄張り図を挿入した地図を入れ、館の受付や櫓で配布しました。

櫓で忘れてならないのは、地元の方に櫓の監視と詰や園路の清掃等をお願いしたことです。夏は、扇風機と蚊取り線香を焚き、強風の雨の日には、建物内に雨が否応なしに入り込み板屋根のため雨漏りが発生した際には、建物内の排水作業を行ってくれました。冬は、電気ストーブ一つで、寒風の中、交代で監視をお願いしました。櫓最大の危機は、平成29年10月の台風21・22号による暴風雨でした。櫓は重量をかけて設計、建築していただいたお陰で無事でした。ところが詰の榎が、根を



櫓内の展示パネル

持ち上げられ、櫓方向に傾いていたのです。それもそのはず、風速30mの風が吹いたのですから。岡豊山では桜が20本、榎が20本の倒木等の被害が発生、この時も地元の公民館長さんが倒木の処理に大活躍してくれました。

平成31年1月13・14日には「長宗我部元親ラリー」で20時まで櫓の夜間開場を行い、来場者には櫓から見える夜景を堪能してもらいました。

櫓の中には、岡豊城跡や破壊された岡豊山にあった古墳の解説パネル、100名城の写真パネルなどを展示しました。平成29年4月6日には、続100名城に選定され、記念スタンプを櫓入口にも設置しました。第13回岡豊山フォトコンテストでも、櫓大賞を設けるなど記憶に残る熱き櫓の約2年間で2月28日静かに閉場となりました。

皆様ありがとうございました。

「岡豊山さくらまつり」(土佐の食1グランプリ)同時開催

開催日時：2019年4月6日(土)・7日(日) 10時～16時

春の恒例となりました「岡豊山さくらまつり」のイベント内容を少しご紹介いたします。

まず、中庭でのステージイベントでは、南国市立北陵中学校音楽部や高知県立岡豊高等学校吹奏楽部・合唱部・ギター部などの演奏で「聞いて楽しい」！ジャズダンスや今年初参加となる高知中央高等学校ダンス部のパフォーマンスは「見て楽しい」！食1エントリーグルメは26品。どれも「食べておいしい」！岡豊山ガイドツアーは随時受付でベテランのボランティアガイドさんが岡豊城跡をご案内します。



桜の開花予想は・・・今年「葉桜まつり」になってしまいかもかもしれませんが、館内では「桜スタンプラリー」と、天然写真家前田博史写真展「桜萌ゆ」を開催中(4月7日迄・観覧無料)です。館内でも桜をお楽しみください。(総務事業課)

「長宗我部フェス」

開催日：2019年5月18日(土) 10時～16時



ここ岡豊山は、戦国武将・長宗我部氏の居城跡。岡豊城跡や長宗我部氏に関連するイベントをいろいろ企画中です。今年には南国市の市制60年の節目の年でもあり、ますますの発展を目指し士気もあがる長宗我部甲冑隊出陣式も復活します。特設ステージでは長宗我部鉄砲隊、大友宗麟鉄砲隊の演武や、戦国チャンバラ、記念演武「戦国Beautiful」など。なんと言っても目玉は、四国初上陸のメタル・サーカス「破天航路」のステージ。ヨーロッパやオーストラリアなど海外での評価も高いこのグループ、ロックな音楽と殺陣や剣舞などがミックスされた舞台です。誰も開拓したことのない領域を行くパフォーマンズの衝撃を、ぜひ歴史で！

さらに、館内では長宗我部展示室でのトークはもちろん、岡豊山の地形や史跡についての講座のあと、実際に史跡を歩くフィールドワークは山城ファンにもオススメです。その他、ワークシヨップ、グルメ屋台や戦国グッズ販売もあり。1日中、戦国気分を楽しもう！(総務事業課)

第13回岡豊山フォトコンテスト表彰式



平成31年1月14日(月・祝)、岡豊山フォトコンテスト表彰式を行いました。天然写真家前田博史氏と当館館長らが審査し、応募総数51点から選ばれたみなさん、おめでとうございます。前田氏のコメントも含め、作品をご紹介します。

まず、審査で満場一致で決定したのが最優秀賞「春陽の時間」。仲むつまじい二人の談笑が聞こえてくるような幸せ感のある作品です。桜もほころび、香りもしてきそうです。

次に、優秀賞「待望の桜満開」は、県道から歴史館へあがる最初のカーブの桜と流れるような車を捉えたもの。夜を思わせるような少し暗いトーンで非日常感が漂います。写真の知識、テクニクがないと撮れない「作品」です。

同じく優秀賞「木陰」は、岡豊山の森を淡い消え入りそうな色調で仕上げたメルヘンチックな作品。緑の濃い季節の撮影ですが、淡い色調に仕上げたのが功を奏し審査員の心もふんわりさせました。高校生の作品で今後に期待が高まります。

槽大賞「元親も観た夏」は年に数日しかない目視で遠くまでクリアに見える日に撮られた、青空が清々しい作品。抜けるような青空が印象的で、その青さにはじめから審査員の目が引きつけられました。約2年の期間限定だった槽からの景色はこの作品の中に残りました。

これら4作品は槽の額装に仕上げ、館のエントランスホールに展示しています。約1年間、お客様に岡豊山の魅力を伝えてくれることでしょうか。

また、表彰式での講評として「どの作品も独創性があり、着眼点が素晴らしい。楽しんで撮っていることが伝わる。これからもカメラ・スマホを手放さず、気軽にシャッターを押してどんどん思い出に残る写真を撮ってもらいたい」との言葉がありました。次回も7月から作品募集をする予定です。カレンダーも作成します。ぜひ、季節毎の岡豊山を楽しんで応募してください。

(岩本)



最優秀賞「春陽の時間」谷脇良文

10連休は れきみんへ行こう!

特別公開 れきみん名品コレクション

4月26日(金)～5月6日(月・祝)

坂本龍馬湿板写真(実物・5月2日～4日)をはじめ
普段は展示機会の少ない名品を展示。

5月3日(金・祝)はれきみんの日 入館無料!

今年は「木の民具」関連企画!

恒例のれきみんクイズの陣をはじめ、キッズコーナー「木のおもちゃで遊ぼう!」、ワークショップ「木の鳥を作ろう」、中庭での大工仕事実演など、歴民ならではの企画が満載!

- キッズコーナー「木のおもちゃで遊ぼう!」
10:00～12:00、13:00～16:00(4、5日も開催)
- ワークショップ「木の鳥を作ろう」
材料代要・申込不要
10:00～材料が無くなるまで
講師：堀田幸生氏(バードカービング作家)
- 公開実演「土佐の大工と左官の技」
土佐大工の会 10:00～15:30
- ミュージアムトーク
コーナー展 10:30～
名品コレクション 11:00～
企画展 14:00～



- ワクワクワーク 5月4日(土) ①10:30～②14:00～
「ミニもろぶたを組み立てよう!」
講師：工房刻屋 材料代・申込要
- 講演会 5月6日(月・祝) 14:00～16:00 申込要
「木の民具一箸にも棒にも柱にもかかる話」
武蔵野美術大学教授 神野善治氏

第10回 岡豊山さくらまつり

4月6日(土)・7日(日)

土佐の食1グランプリも同時開催!

2019年7月1日(月)は臨時休館

岡豊風日(おこうふうじつ) 第105号
平成31年3月30日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり

観覧料 (通常展)大人(18才以上) 460円
(企画展)通常展 510円
団体(20名以上) 360円
団体(20名以上) 410円
無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)

印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展 土佐・木の民具ものがたり

4月26日(金)～6月30日(日) 会期中無休

高知県の8割は森林です。土佐の人々は身近な木を利用して生活してきました。本展では、桶や木地椀など木製の民具や、大工道具などの加工道具を展示し、あわせて木霊など樹木に対する信仰も紹介。木とともにあった高知県の人々の暮らしを垣間見たいと思います。



手提げ桶

- 講座 「木を切る・削る・彫る」
—土佐の大工の技—
6月9日(日) 14:00～16:00
講師：中脇修身氏(当館資料調査員)
要予約・要観覧券
- 史跡巡り 「長州大工の足跡を訪ねる」(仮)
5月25日(土) 講師：溝淵博彦氏(当館資料調査員) 要申込
- ミュージアムトーク
4月27日(土)・5月3日(金)・6月8日(土)
各14:00～14:30 担当学芸員 予約不要・観覧料要

長宗我部氏の居城・岡豊城で 戦国の歴史を学ぼう!

コーナー展 長宗我部家の外交官
—香宗我部親泰の遺品—

4月19日(金)～6月2日(日)

長宗我部元親の実弟・親泰は、その生涯をかけて兄を支えました。今回は保存処理の完了した親泰所用の陣羽織や、伝来の甲冑などを一堂に展示します。



六十二間筋兜

国史跡・岡豊城跡めぐり

毎週日曜日10時出発。Aコース(30～40分程度)、Bコース(60分程度) 岡豊城跡を楽しみながら散策 事前予約不要・要観覧券(荒天の場合、中止することもあります)

土佐のまほろばウォーク

- ①4月16日(火) 土佐のまほろば探訪・東へ
 - ②5月9日(木) 土佐のまほろば探訪・西へ
- 参加費：500円、定員 各20名(先着順・要予約)

第10回長宗我部フェス

5月18日(土) 長宗我部軍出陣式や鉄砲隊演武、10周年を記念してSPECIALゲスト「破天航路」も出演! 南国グルメを味わい、講座で学ぼう!

予告 企画展 昭和から平成へ
7月19日(金)～9月16日(月・祝)